

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年1月28日

【評価実施概要】

事業所番号	270600307		
法人名	有限会社 ケアサービス十和田イースト		
事業所名	グループホーム たかしずの森		
所在地 (電話番号)	〒034-0041 青森県十和田市相坂字高清水78-54 (電話) 0176-22-0150		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成 19年 12月 3日	評価確定日	平成 20年 1月 28日

【情報提供票より】(平成 19年 11月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 13年 9月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	13人, 非常勤 4人, 常勤換算 16人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2階建ての 1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	10,500~冬季19,000 円
敷金	有() 円 (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 950 円		

(4) 利用者の概要(11月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	11 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 83 歳	最低	74 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	石川医院・ふくい歯科クリニック
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

施設内は本館、新館の2ユニットに分かれており、それぞれ清潔感があり明るい雰囲気である。廊下には、日本庭園風の中庭があり、利用者は室内にいても季節感を感じることができる。また、装飾もさりげなく飾ってあり、家庭の雰囲気でも自然に利用者と接することができる。ホールには小上がりにこたつが用意され、居心地の良い環境でゆったりと過ごせる共有スペースとなっている。
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価で指摘された資料や評価等の記録に関しては、きちんとまとめられ、取り組まれていた。改善シートを有効に使い問題点の抽出や改善に向けての姿勢が前向きである。できることから改善しており、職員の意識の啓蒙にも役立つ機会となっている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者と職員が一緒になって自己評価表を作成したことにより、新しい課題や問題点について共通の認識をもつことができている。また、外部評価の結果は利用者の家族全員へ郵送にて報告し、理解をもらっている。
重点項目	メンバーは、管理者、施設職員、利用者、家族、町内会長であり、主な会議内容としては現状について報告し、意見交換を行っている。また、外部評価についても話し合いが行われている。今後は近隣の住民や民生委員の方にも参加を促し、家族参加も増やしていく予定である。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10,11)
重点項目	家族からの苦情や要望は、主に直接管理者に話せるように働きかけや声掛けを行っている。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	施設の近くに民家やコンビニがある住宅地で、気兼ねなく挨拶を交わしたり散歩の際に声を掛け合ったりする機会が多々あり、地域に溶け込んでいる。管理者は町内会の役員でもある為、グループホームや認知症について折りに触れ話しており、地域との連携の一端に役立っている。また、施設の行事への地域住民の参加があったり、地域小学校や特別養護老人ホームの行事に出向くこともあり交流が図れている。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「利用者の願いを叶えてあげたい」という理念を念頭に援助している。また、管理者が町内会の活動を通して、地域にも理解されている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングの都度理念についての話し合いがもたれている。職員は常に理念を念頭において職務をこなしている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	施設の行事である夕涼み会では地域住民の訪問があり、一緒に楽しまれている。日常的に近隣の方と挨拶を交わすなど、積極的に交流をもっている。また、小学校の学習発表会を見学したり、運動会へ参加したりしている。町内会でも認知症についての話を都度行っており、今後は保健協力員と協力し認知症を理解してもらう活動を検討している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>前回評価に関しては、改善シートを有効に使い、すぐできる事から改善している。また、今回の自己評価では、管理者と職員が一緒になって評価表を作成し、新しい課題や問題点について共通の認識をもつことができている。外部評価の調査結果は、利用者の家族全員へ送付し報告している。</p>		
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>現状報告が主な会議内容になっており、きちんと意見交換を行っている。また、外部評価についても話し合いが行われている。</p>		
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市からの情報提供があり、適宜報告もされ連携が図れている。また、文化祭の案内や感染症等の情報の共有化、意見交換も行われている。</p>		
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>管理者は、制度の研修を受講し、必要な方は活用できるよう支援している。制度に関する内部研修を行い、マニュアルも作成され、職員間で情報の共有がなされている。また、今後も外部研修を受講する予定である。</p>		
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>管理者と職員は虐待について学ぶ機会があり、理解されている。また、管理者・職員は日々の業務の中で入所者の表情や行動を観察し、細かな気づきを怠らないようにしている。職員のストレス解消の為に、リフレッシュ休暇を取り入れている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入所前に施設を見学して、生活の雰囲気をつかんでもらい入所に繋げている。また、契約や料金、退所時について管理者が、入所者や家族に十分な説明を行っている。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>体調変化時や問題行動があった時は、その都度家族に報告している。活動状況のわかる写真や便りを作成して郵送したり、面会時に生活状況を伝えている。あまり面会に来られない方に関しても最低、月に一度請求日に連絡をしている。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者や家族からの苦情や要望は、主に管理者が伺っている。日頃から直接話せるように働きかけており、上がった意見や気づきに対してすぐミーティングをもち対処している。</p>		<p>直接管理者に意見を言い難い方への配慮として、手紙等で意見を伝えるようにしたり、運営推進会議等の場で、さりげなく伺えるような取り組みに期待したい。</p>
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>2ユニットなので、ユニット間での職員の異動はあるが、理解を頂いてから行い、利用者への配慮がなされている。家族への報告もされている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部の研修会に参加し、報告会も行い情報の共有化がなされている。また、新入職員の研修も行われている。</p>		
14	18	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域の同業施設との交流がある。管理者は、他施設との交流を積極的に行っているよう取り組んでいる。相互訪問等も今後実施していく予定である。</p>		
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入所前に見学して生活の雰囲気を掴み、環境に馴染んでもらえるようにしている。馴染みの品物を持ち込み自宅に近い空間作りに努めている。また、居室移動は入所者の状態に配慮しながら家族の了解を得ている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>調理を一緒に行ったり、ゆっくりとテレビを見ながら会話を楽しむなど、共有した空間の中で支え合っている。</p>		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>					
17	30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>「利用者の願いを叶えてあげたい」という理念に副って、思いや意向の把握に努めている。一人ひとりの個性に合わせた援助を行っていきけるよう細かな気づきを大切にしている。意思疎通が困難な方には、表情を観察しながら対応している。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
18	33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画作成にあたり、本人や家族から要望を聞き、担当職員から生活状況を確認して、介護計画を作成している。</p>		
19	34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は6ヶ月毎の見直しが行われている。また、体調変化時にはその都度見直しがなされている。</p>		<p>見直しの為の会議録を整備をする事で、変化に応じた実践的なケアに向け、職員間での共有が図れることを期待したい。</p>
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
20	36	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>管理者が役員でもある町内会で、認知症についての情報を話す機会があり、そこでグループホームや認知症についての説明を行っている。また、保健協力員と協力し、認知症を理解してもらう活動を検討している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人・家族の希望に副いながら、かかりつけ医への受診を支援している。また、日頃から協力医との連携もとれており、日、祭日等の急変時の受診もできている。</p>		
22	44	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化や終末期に向け話し合いを行っており、方針の共有が図られている。急変時のマニュアルを整備し、応援体制も整えている。また、今後訪問看護ステーション等との協力に関して検討している。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人情報や記録管理は、プライバシーの保護に重点を置いており徹底している。日々のケアはその都度職員間で確認し合い、管理者が指導も行っている。入浴に関しても、入所者の希望に副い同性介助を行い、外部に配布するフォト便りにも個人写真が掲載されないようにしている。電話の対応もプライバシーに配慮されている。</p>		
24	49	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>常に利用者のペースに合わせることを念頭に置きながら、希望に副った生活ができるように支援することを心がけている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>手伝っていただける方には準備と片付けを行ってもらい、食事作りに参加してもらっている。季節に合わせた献立を作り提供している。</p>		
26	54	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入浴は週2回、午後に行うようにしている。希望があった場合は、利用者の意向を尊重して入浴できるような体制は整えている。洗身用具は個人の物を使用し、ゆったりと時間をかけながら落ち着いて入浴できるような配慮をしている。また、近くの温泉に行く計画もしている。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>家事作業、清掃作業等の役割があり、犬の散歩を日常的に行っている方もいる。また、気晴らしの支援に関しては、天気を見て外出やドライブ等に出かけたりしている。</p>		
28	58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>利用者の希望に副いながら、近くの店やコンビニへの買い物支援や、ドライブ等を行っている。また、近くの小学校の学習発表会や野外コンサートに出かけたりもしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者は、身体拘束に関して正しく理解されており、日常業務の中で職員へ指導している。職員は身体拘束のないケアに取り組んでいる。		
30	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム前の道路は交通量が多い為、やむなく施錠しているが、管理者・職員は鍵をかけることに対する弊害を十分に理解している。		鍵をかけないケアへの実践に向けて、まずは時間を決めて短時間でも玄関を開放するなどしてはどうか。
31	68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	利用者参加の避難訓練や通報訓練は定期的に行っている。近隣の住民や商店にも理解を得ており、協力体制も整えられている。マニュアルも整備されている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量をチェック表に記入しており、必要に応じて補助食品等で補っている。		
33	75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防に関するマニュアルを整備し、内部研修を行っている。施設内の消毒や殺菌は薬品を使用を行い、予防に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>					
<p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>日本庭園風の中庭があり、利用者は室内にいても季節感を感じることができる。ホールには小上がりにこたつが用意され、中庭を眺めながらゆったりと過ごせる共有スペースとなっている。また、装飾はユニットの雰囲気に合わせて物をさりげなく飾り、家庭的である。</p>		
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>生活しやすい環境を第一に考えており、ベッドやクローゼットの配置も個人に合わせて過ごし易いように工夫されている。居室には馴染みの物を持ち込み、居心地良い空間となっている。</p>		

 は、重点項目。